退職後も視野に入れた資格・検定取得および自己啓発奨励を目的に幅広く支援を行う等の支援制度の充実を図っております。また、同時に女性活躍を推進するため外部研修への女性社員派遣、各種委員会への積極登用等、加えて男女・年齢問わず安心して働いて頂くために育休制度を含め福利厚生制度も整え、将来を担う人財の確保に努めています。女性の育休取得はふえていますが、男性はまだまだです。女性の管理職は４～５名います。

本社　データとデジタル技術の利用についてお聴かせください。

矢崎　当社はＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）を全社的最重要テーマとして設定し、その主導をしていくＤＸ推進部を新設するとともに、積極的に社員のＩＴリテラシー向上に取り組んでいます。ＤＸの推進を通じて、製造現場と事務系現場の労働生産性を向上させ、少ない人数でデータをベースとした経営を実現できるよう、鋭意進めてまいります。システムの一元化（例えばＳＡＰの導入）を図ることだと思います。

米国10年、ドイツ12年の海外経験

本社　最後に矢崎新社長の人となりについてお尋ねします。出身、生年月日、学歴（学生時代の生活）、入社の動機、職歴のなかで印象に残った出来事、成功または失敗談、海外（欧州、米国、上海）経験で感じたこと、自身のモットー・生活信条、座右の銘、ストレス解消法、趣味・嗜好、自身の性格、血液型などをお願いします。

矢崎　出身は東京都大田区の大森です。一九六一年10月生まれです。大森周辺は閑静な住宅街がある一方で世界のメーカーと言われる工場地帯や古い商店街もあり大変魅力ある場所だと思います。小・中は地元の公立ですが、高校は私立でラグビー部に所属していました。

中学時代の同級生との会合が、大森で年に数回行われており、今は別の場所に住んでいるので毎回行くのが楽しみとしています。ダイバーシティ（多様性）が企業経営には必須と言われる昨今ですが、多様性は育った大森地区で多少なりとも経験出来たと感じております。

大学は米国のバーモント州のセントルイスカレッジ商業部総合ビジネス学科に入学しました。私は小さい頃から珠算学校に通っていました。中２の春休みに、珠算の使節団として米国へ行きました。ロスアンゼルス、サンフランシスコ、ハワイを見て回りました。そのことが強烈な印象となり、いずれ海外へ行きたいと思いました。在学中には全米をバス旅行したり、11月のサンクスビギングデーに米国人の家庭に招かれたりして、楽しく過ごしました。スキー場にはよく行きました。父の友人が米国へ留学経験があり推薦されたのがきっかけです。当初は留学を簡単に考えていましたが、卒業するのは大変でした。アメリカ人の何倍も勉強しないと授業に付いていけなく、試験に通ることも出来ないので、この時が人生で一番勉強したと思います。当時は18歳からアルコールを飲める州でしたので、アメリカンビールも早くに覚えました（笑）。折角米国で学んだので貿易の仕事をやりたいと思い、帰国後に人材斡旋の会社に登録しました。そうしましたら、一番最初に声を掛けてくれたのが当社（市川毛織）で、縁あって入社する事が出来ました。その後、50歳までの間、米国に10年、ドイツに12年駐在しました。沢山の失敗も経験しました。米国駐在の20代の頃に当時の大御所と言われた代理店と大喧嘩し、本社の専務へ手紙で「こんな若いやつを何故送り込んだんだ。早く日本へ帰国させてくれ。」と書かれてしまいました。直後はへこみましたが、その後、この代理店とも信頼関係を構築出来、一緒に拡販出来たのは、今となっては良い思い出です。米国は代理店ではなく、直売りです。ですから、セールスエンジニア的な行動が必要です。

自身のモットーや生活信条は、良く働き良く遊ぶ（Work Hard & Play Hard）です。また、経営や仕事には大変なことも沢山ありますし、様々な問題も発生します。引きずらず、その日はすぐに寝て次の日から心機一転行動する様にしています。座右の銘は、王貞治さんの「努力は必ず報われる。もし報われない努力があるのならば、それはまだ努力とは呼べない。」です。日々研鑽で、やっております。趣味は結構沢山ある方だと思います。ゴルフ・読書・ラグビー観戦・コンサート鑑賞（山下達郎さんの大ファンです）・食べ歩き・家内との旅行などです。血液型はＢ型です。

日本、米国、欧州、中東、アフリカ、アジア、中国など、世界中の製紙会社へ訪問する機会を頂きましたが、共通して言えるのは誠実に一生懸命に顧客と接すれば、ほとんどのお客様が暖かく支えてくれたということです。心から感謝していますし、これからも末永くお付き合いさせて頂きたいと思っております。今後とも宜しくお願い申し上げます。

本社　大変興味深いお話の連続でした。是非ともそのご経験を生かして、良い会社に発展させていただきたいと思います。（完）

■日本製紙のＣＮＦ新製品

純米吟醸を配合した瀧澤化粧水

昨年発売の「瀧澤ハンドクリーム」に続く、「瀧澤化粧水」が11月で新発売となった。製紙メーカーの最先端素材と、日本古来の日本酒とのコラボレーションによる天然由来素材による「瀧澤化粧品」第二弾となる。

「瀧澤化粧水」には、新素材セルロースナノファイバー・セレンピア®（日本製紙の製品名）が配合されており、純米吟醸「瀧澤」を主成分として70％と高配合されて、保水性が長持ちするのが、特徴となっている。「瀧澤ハンドクリーム」では、純米吟醸「瀧澤」を35％配合したが、「瀧澤化粧水」では、二倍の配合をする事で、日本酒本来の効用を高めている。

昔から言われてきたが、「酒蔵の杜氏の手はツヤがあり、きれい。」とされてきた。日本酒造りの工程で、米と麹菌を繁殖させて、米麹を造る工程があるが、麹菌には多くの酵素が豊富に含まれており、この多様な酵素の働きによって肌が健やかな状態に保たれ、更には乾燥から肌を守ってくれる事により、米麹を扱い始めると、それまでアカギレ等、冬場に水を扱うことで傷んだ手が、実際に「白くてきれい。」になる事を歳人達は経験している。

日本酒や、酒粕を配合した化粧品は数多く出ているが、「瀧澤化粧水」には、最高級の純米吟醸を贅沢に使用している。日本酒「瀧澤」は、長野県上田市の信州銘醸（滝澤恭次社長）のブランドで、地元長野県和田峠産の、黒耀石の岩盤からろ過された、日本一といわれる超軟水「黒耀水」を仕込み水として使用している。

水しぶき

「瀧澤化粧水」は、肌にやさしい成分のみを厳選し、人工香料や着色剤は不使用で、保水性を長く保つ事で、肌に潤いを与え、これからの乾燥する季節に最適な商品となっている。また、若返りのハーブとといわれる天然のローズマリーを配合し、爽やかな仕上がりとなった。

今回の「瀧澤化粧水」の開発で、一番苦労したのは、新素材セレンピア®のベストな配合を探る点で、保水効果を高めるためにも、出来るだけ配合率を高くしたいと考えた中、濃すぎると沈殿物が目立つ事もあり、試作をくり返して、最適な配合を見つけ出すまでに、時間を要した。また、米麹の香りが苦手とされる方にも、安心してご利用頂けるように、天然のハーブを配合する事で、米麹の香りを目立たなくするマスキング効果を求めて、何通りもの試作を行い、ベストなローズマリーを選び出す点においても、手間が掛かった。その結果、爽やかな使用感を得るに至った。

内容量は、二〇〇㎖の専用容器入り。発売当初は、セレンピア®の効果をより多くの方に体験した頂く為にも、お求めやすい特別価格でのご提供となっている。

個人客向けでは、博多の西日本新聞社の通販サイト「セレクトモール」にて、瀧澤ハンドクリームの販売が行われているが、追加で「瀧澤化粧水」もラインナップされる。

問合せ先：太田紙販売㈱　紙化推進室　℡03-3851-2131

企画元：太田紙販売（東京都台東区）、製造発売元：皮膚臨床薬理研究所（東京都渋谷区）